

JA全農えひめ情報

みくわ～と

新春特別号

1

2024・January



CONTENTS

- ① 新春鼎談
- ⑨ NOW NOW COOKING 〈今月の素材〉 いちご

「持続可能な農業と食の提供のため、 「なくてはならない全農」であり続ける」

昨年一年を振り返って

山崎 新年あけましておめでとうございます。

吉見・関岡 おめでとうございます。

山崎 私はFM愛媛の「JA全農えひめプレゼンツ『パパイズムの食イズム』」のコーナーを担当しております、山崎愛と申します。本日は消費者の立場で「持続可能な農業と食の提供のため、『なくてはならない全農』であり続ける」という全農グループのめざす姿の実現に向けての取り組みなどをお聞きしていこうと思います。その前にまず、吉見会長にお聞きします。昨年6月にJA全農えひめの運営委員会会長、7月に全農経営管理委員会副会長に就任されたと

お聞きました。この半年間振り返られていかがですか？

吉見 大変なことになつたな、というのが実感です。私はJAえひめ南の組合長なのですが、役員改選があつて常務から専務になつて、半年後に組合長になりました。県連の役目もあるのですが、まさかそのあと6月にJA全農えひめの運営委員会会長、翌月に全国の副会長と、思つてもみなないようなことが半年間に一気に起きました。私はJAの組合長の立場で、全農の役割、愛媛県本部の役割がどうあるべきか考え、県本部長と協力し、しっかりと役割を果たしたいと思っています。

山崎 お話をお聞きしていますと、JAグループ間のつながり、みたいなものが、密だと感じます。

〈出席者〉

- JA全農えひめ
よしみ カズヤ
吉見 一弥 運営委員会会長
- JA全農えひめ
せきおか みつあき
関岡 光昭 県本部長
- フリーアナウンサー
やまさき まな
山崎 愛 さん



▲(写真左から)吉見会長・山崎さん・関岡県本部長

吉見

J Aグループは地域密着。それが一

番他の民間企業とは違うところであり、それなしでは協同組合は成り立たない、原点とも言えると思います。

山崎

関岡県本部長にとりましてもこの一年間はいかがでしたでしょうか?

関岡

全国に行くと非常勤の会長、副会長が多いのですが、吉見会長の場合はJ Aの常勤役員という中で、県、それから全国の仕事と非常にハードです。またお住まいは、宇和島市ですので松山に移動するだけでもかなりの長距離で、本当に大変だと思いま

す。なんとか、県本部としても精一杯サポートして負担を軽減するよう心がけていきたいと思っています。

私は、就任して4年目になるのですが、新型コロナ感染拡大と共に県本部長になつたような感じで…。J Aの仕事は組織で、組合員がJ Aを作り各J Aが県域でまとまって仕事をする。現場に行つてどういつたことで苦労しているか、その仕組みづくりを考えるのが私たちの仕事ですが、人が集まり色々な話をするということ 자체が出来なかつたので、組織運動の停滞という時期だつたと感じています。昨年はそういう意味では新型コロナも5類になつて営農経済事業をしっかりとやらなければいけない、という思いで過ごしてきました。

山崎

今のお話にもつながりますが、新型

コロナの影響があつて私たちの生活も大きく変わりましたし、大切にしたいものも変わってきて、「食」、というものもかなり見直されたタイミングだったのかな、と思います。何か現場でも感じられることは、会長ありましたでしょうか?

吉見 外食の機会が減り、家の中で過ごす事が多くなり、食の環境も変わりましたよね。ここにみかんがありますが、こういう食べ物の需要が増えたとかもありました。

関岡 逆にイベントがなくなつて困りました。農業の中でも品目によつては農家の収入に直接影響が出ましたね。

具体的な取り組み 「販売事業」について

山崎 では、より詳しくお聞きしていきた

いと思います。昨年は色々な食品が値上がりして私たち主婦にとりましても大変でした。関岡県本部長、販売事業についても様々な影響があつたのではないですか?

関岡 今、山崎さんが言われた買う立場を作つて売る立場と、相反するところがあるのですが、農畜産物は工業製品と違つて、投資したコストに見合つた価格で売れていないというところに課題があります。天候などの理由で年により作柄に違いがあり、

何とか再生産できる価格で買つていただきたいということを、流通関係、それから消費者の方へ訴えていますが、物価がどんどん上がる中で難しい状況です。品目ごとに

見てみると主食用米は、近年10万トン程度消費が減少していることで、生産量が消費

と「ヒノヒカリ」の2品種、特Aを獲得し、かなり消費が進みました。また、愛媛県が開発した「ひめの凜」非常に好評ですが、令和4年産米は生産量が追いつかず、7月で在庫が切れてしまつた、という事もありました。

はだか麦は36年連続日本一の生産量を誇っています。これもコロナ禍で焼酎や味噌の需要が減少したこと、在庫過剰になつていてのですが、この2年、生産者に小麦粉にするなどの生産調整によつて、適正な在庫量となり、昨年の米価は、一昨年より上昇しました。

年に一回、全国の米の食味ランキングが公表されるのですが、愛媛県産「にこまる」



山崎愛さん プロフィール

大阪府出身。

愛媛の民放テレビ局就職のため松山へ（祖父母は宇和島市出身）。

退職後はフリーに転身。

現在は、1男2女の3人の子育てをしながら、松山を拠点に、県内外で活動中。

【担当中のお仕事】

FM愛媛 「noonday pop」火・木担当

*毎週木曜日12:05頃～「JA全農えひめpresents

『パパイズムの食イズム』」のパーソナリティ

「UP MANAGEMENT YOUR GOLF」水曜放送

テレビ愛媛 「EBC LIVE News」日曜・不定期

タウン情報まつやま 連載「選手“愛”鑑」（愛媛FC/FC今治関連）

山崎

在庫とにらめっこしながら色々な調整、開発などの事業もされている事は初めて知りました。「ひめの凜」は私も大好きで、見つけたら購入するのですが、しばらく見なかつたのはそういうことだったのですね。

吉見

よく日本の米が高い、と言われるのですが、本当に高いのかと思うのです。グ

ループ会社であるひめライスが売っている県内産コシヒカリ石鎚が、10kg5,000円しません。5,000円としても茶碗一杯、だいたい150gぐらい。5,000円でい

うと100g50円。150g食べても75円ですよね。これを高いというのかな、というのが私の感覚です。水でもペットボトル1本150円ぐらいしますよね。茶碗一杯の米が75円、もしかしたらそれより安いかもしない。こんな美味しい米がこの値段でいいのだろうかと思います。そのくらい、

山崎

私は大阪から愛媛に移住してきたの

ですが、愛媛の食はお野菜、お肉、お魚のすべてどれをとっても、美味しくて、新鮮そのもので、しかも大阪で購入するより価格は安いので、買う立場としまして

は嬉しいことではあります。ただ、作つてくださつている生産者にとっては、あれだけ手塩にかけて育てた

のに結果的に天災で収量が少なくて、少ないけど価格はあまり上げられない、という負の連鎖になりがちで…。

吉見

農家が価格を決められるわけではないので、この値段でいいのだろうか、と思うことはあります。現在の米の販売価格では、再生産可能な価格とは言えません。生産するためには、トラクターやコンバインなどへの投資も必要ですし。そのあたりの理解も、我々は消費行動でやらなければいけない側面と生産者を助けなければいけないので、

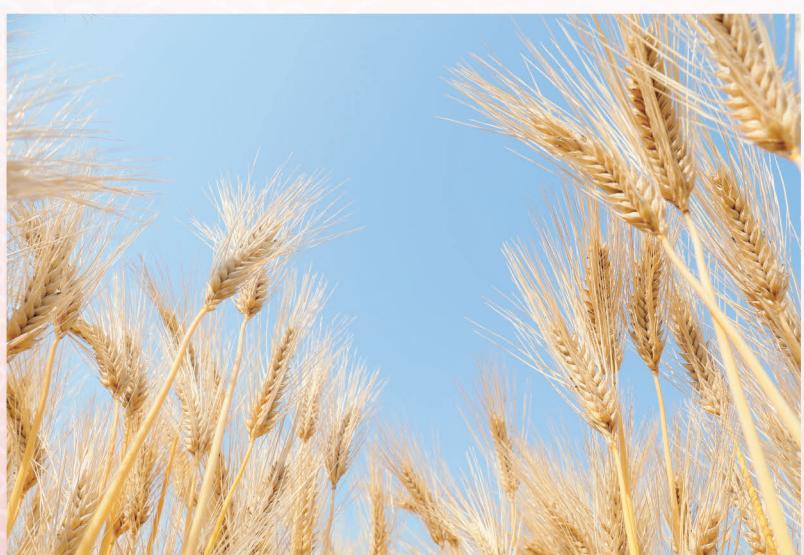
双方で発信していきたいと思います。

山崎

まさに持続可能、というところで考えると、私たちに「食」はなくてはならないものですし、それを作つてくださる方が続けられなければ私たちの「食」が危ぶまれるということになりますね。消費者の私たちにとって、そこを少し見直して、どういうものを選ぶのか、価格設定も考えるべきだと思いました。

吉見

職員にも外国産よりは国内産、国内



▲愛媛県産はだか麦 36年連続生産量日本一

産でも県内産、県内産でも身近なところ、

自分の産地を選んで購入する、それが農家所得にもつながる、という話をします。是非そんな感覚で、価格だけでなく、出来れば産地を見てほしいですね。

山崎 産直市などへ行くと、産地が書かれてあって、あの辺に畑があるのだな、そうすると親近感が湧いて食べてみたいな、とういう思いにもなりますし、そういうところを今後より大事にしていかなければならぬですね。

具体的な取り組み 「購買事業」について

山崎 さて続いてですが、購買事業についてお聞きします。燃料高騰等もありましたが、生産資材にも影響があつたのではないですか？

関岡 購買事業、特に生産資材、肥料、農薬など、段ボールもそうなのですが、価格が高騰し、生産者にご負担をかけている状況です。

日本は資源が乏しい国なので、肥料の原料もほぼ海外から輸入しています。ロシア・ウクライナ戦争当初は、加里がロシア等から輸出されなくなり、原料の国際価格が高騰し、円安も相まって、高止まりの状況が続きました。また、段ボールについても国

内古紙価格が高値で推移しており、更に円安や、燃料価格の高騰による原紙価格の大幅な値上げがありました。

肥料の基本は、土づくり。調和のとれた土を作ることが大事。そのための取り組みに県本部としては力を入れています。土壤診断室で県内の農家から持ち込まれた土壌を分析後、処方箋を作成し、健康な土作りの指導を行っています。また、肥料も銘柄を集約して、低コストで供給していく、こういった取り組みをずっとやつてきています。

山崎 人間の身体に例えると、健康第一のために、土台を作っていく、という事ですね。吉見会長はどうでしよう？

吉見

肥料、農薬、段ボール、トラックの燃料代、運賃、すべての価格が高止まりといつた状況の中、それら生産コストを含めて丁寧にJAグループとして対応出来る方法はないのか、価格の形成に消費者の理解が得られるかどうか、といったことを考えていました。農業所得が安定しないと生産者にとつては、農業をやりたいけどこれではやれない、という現実があります。その環境を作るのが、JAグループの役割だと思います。

山崎 続いてですが、「はだか麦のまろやか黒酢」を使った、FM愛媛の「夏休み親子料理教室」のお仕事をさせていただきました。こういった商品開発も生活事業だとお聞きしました。最後にこの生活事業について、関岡県本部長いかがでしようか？

具体的な取り組み 「生活事業」について

サービス等、多くの役割をグループとして担っているので、単純に価格だけではない、あとの責任を全て負わないといけないという大きな使命があります。



関岡

生活事業は組合員のライフラインを

よく我々も座談会で肥料、農薬の価格をホームセンター等と比べ、JAのほうが高い、という話になりますが、その背景は嘗て、関岡県本部長いかがでしようか？農指導、安定供給のための在庫管理、配達



担うところで、高齢化が進んだ中山間地では、店舗が閉鎖されて買い物をする場所がなかつたり、ガソリンスタンドが撤退し、ガソリンを入れる事が出来ない、など暮らしに影響が出てきています。その部分を、いかにJAグループがカバーをしていくか、というところが大きな役割になつてきます。固定の店舗がないところには、移動購買車を活用する、JA-SSも、場合によつては行政と一緒になつて残していく、そうして取り組みを、しつかりJAグループとした取り組みを、しつかりJAグループとしてやつていきたいと思います。また、農畜産物は、そのまま食べても美味しいですが、色々なものに加工して付加価値を高めて売つていく、という取り組みもしていま

す。はだか麦の麦茶、それから黒酢、そして、はだか麦は食物纖維がとても豊富なので、災害時の非常食として出来ないか、介護の分野での使い道、大学など関係機関と一緒に

になって取り組んでいます。
山崎 なるほど。はだか麦は栄養バランスも優れたスーパーフードですものね。樂しみです！ 吉見会長、いかがですか？

吉見 えひめ南の管内には、島嶼部があります。ここでは小規模ながらも生活店舗事業を継続しています。しかし、旧来のままでは赤字で人件費も賄えていられない状況でしたので、一部再編をさせていただきました。その代わり移動購買車を導入して、ライフルラインの維持に努めています。これには行政にも協力をいただきました。ただ、住民を説得するのは大変でした…。座談会で3つある店舗を1つにして、とお願いをしたところ、私たちはどうやってご飯を食べたらいいのか、どうやって生活するのか、と大反対されました。店舗は1つにしますが、移動購買車を走らせますので、それで理解してもらえませんか、なんとかライフルラインの維持のために我々も精一杯頑張りますし、経営努力もします、ということで何とか皆さんに理解してもらいました。採算がとれるかというと、それは厳しい話なのですが、組合員の生活を守るにはJAしかない、この地域の人たちの生活を守ろう、少し赤

字は出るがやらせて欲しい、と理事会での承認を得ました。地域ごとにJAグループに関して望まれるものは違いますので、きちんと組合員の声を聞いて応える、これが大切だと思います。生活事業は裾野が広く、「ゆりかごから墓場まで」というのが、JAの事業です。地域の人の困つたときに頼りになるような組織でないといけません。

山崎 今後日本全国で過疎化の地域がどんどん増えて高齢化が進むとなると、国として、県として、自治体と手を組んでその地域の魅力を発信し若い世代に移住してもらえる方法を考えていく必要がありますね。
吉見 そして一緒になつて守つていく。それはJAグループだけが行うのではなく、行政と一緒になつてこの地域をなんとかしましよう、につながつていかないと出来ないと思います。

山崎 そういう意味ではコロナ禍は、ダメージを受けられた方もたくさんいらっしゃるのですが、家でリモートワークや、事務所でウェブ会議が出来るといった転機、普段の生活を見直す大きなきっかけになつたと思います。過疎地域でも魅力がたくさん詰まつた場所が愛媛県内にたくさんあります。そういう場所の素晴らしさを、子供たちの世代に知つてもらい、住みたいと思つてもらえるようなアプローチをしていきました

「食」へのこだわり



▲11月2日愛媛みかん大使県庁訪問

関岡 山崎さん、普段の食生活で意識されていることはありますか？

山崎 なるべく、地元のもの、愛媛でとれたもの、近いところでとれたもの、季節によつては絹かわなすとか、愛媛でしか食べられないもの、というものを意識的に購入するようにしています。テレビ局の在局時代は、いろんな農家さんのところに行かせていただく機会があり、ブランドのお話をかも伺つたので、当時聞いた話を子供たち



に話すこともあります。私は県外から移住してきたからこそ、感じることがたくさんあるので、それを子供たちに伝えていきたい、と思つています。

関岡

愛媛県は、かんきつが生産量日本一、

野菜はそれほど突出して量が多いものはないのですが、色々な野菜が出来る産地、といふところが特徴ですね。

山崎 野菜ではないですが、ブラッドオレンジもそうですね。

関岡 ブラッドオレンジは温暖化にも対応出来るかんきつということで、イタリアから導入されたものですが、他の農作物は毎

年、異常気象が続いていますので、生産者

の方々はかなりご苦労されています。

山崎 気温が上昇することで農作物の出来る量が少なくなつたり、それに伴い価格が高騰したり、値崩れする事がありますね。

関岡

野菜でも昨年、夏場暑くて生育が悪

く、値段は今までにないぐらい高くなりました。結局、生産量が少ないため、手取りとして生産者には残らない。それが、マスクでは野菜が高くなり、いかにも農家が儲けていたみたいに報道されていましたが、実際はそんなことはないのです。適正な量が取れて単価が安定するのが一番の希望なのです。

山崎 私は発信する側なので、背景に何が

あつて、どういう問題が起きているのか、というところをしっかりと把握して発信することが非常に大事ですね。

本日の鼎談まで、JAは生産者とつながっていて、私たち消費者はあまり関係ないのかな、と思っていたのですが、価格の設定など、生産過多なものを別のものに変える、商品開発、と様々な事業を行っていることを知ることが出来ました。消費者とも深く関わりがある、と認識しました。

令和6年の抱負

さて、令和6年がいよいよスタートとなります。新年の抱負をお伺いします。まずは吉見会長からお願ひいたします。

吉見 JAグループは、金融、共済も含め、様々な事業を展開していますが、中でも経済事業、営農事業に対しての要望、これが一番多いように思います。それはJA全農えひめに対する期待の表れでもあります。それにしつかりと対応できるような組織、また人材を育成し、1つでも2つでも期待に応えていけるよう、頑張っていきたいと思っています。

山崎 関岡県本部長はいかがでしようか？

関岡 令和6年度は2030年に向けて“なくてはならない全農”であり続けるとい

●2030年に向けた6つの全体戦略

生産振興	食農バリューチェーンの構築
TAC活動の強化や革新的な技術等による生産性向上、JA出資型法人への出資など、生産基盤の維持を最重要課題として取り組みます。	集荷から販売まで一貫したバリューチェーン構築と国産原料を使用した商品開発、消費者への情報発信により、食料自給率と生産者の所得向上に貢献します。
海外事業展開	地域共生・地域活性化
海外ニーズを踏まえたマーケットインやアライアンス、投資とリスク管理による輸出拡大、輸入原材料の安定調達、海外事業の成長戦略をすすめます。	生活インフラの整備や再生可能エネルギーの普及など、地域のくらしや自然を守り、地域経済の活性化を支援します。
環境問題など社会的課題への対応	J Aグループ・全農グループの最適な事業体制の構築
環境負荷低減や地域循環農業に向けた総合的・段階的な取り組み、カーボンニュートラルに向けた未来型の商品・技術開発をすすめます。	多様な人材の確保や業務・事業体制の再構築、財務・投資の最適化、DX戦略の構築、ガバナンスの強化に対してグループが一体となって取り組みます。

吉見・関岡 私は本日伺ったお話を、消費者という立場でどう発信出来るのか、また、日々の暮らしの中でのアンテナの張り方を変えないといけない、と感じました。本日はありがとうございました。

NOW NOW COOKING

▶(右)いちごのドレッシング、(左奥)いちごのカナッペ～チーズケーキ風、(左いちごのかなッペ～チーズケーキ風)



指導／愛媛調理製菓専門学校 山崎 翔 先生

今月の素材
いちご



いろいろな種類を楽しんで、好みのベストマッチを見つけて！

いちごのカナッペ～チーズケーキ風～

材料・4人分	※1人あたり約302kcal
いちご	8個
パイシート	1枚
ヨーグルト	
Ⓐ (水を切っておく)	50g
クリームチーズ	200g
グラニュー糖	20g

いちごの赤ワインマリネ

材料・4人分	※1人あたり約101kcal
いちご	8個
赤ワイン	100cc
水	200cc
グラニュー糖	40g
Ⓐ はちみつ	40g
レモン（スライス）	1枚
シナモンスティック	1本

いちごのドレッシング

材料・4人分	※1人あたり約252kcal
いちご	10個
Ⓐ はちみつ	10g
リンゴ酢	20cc
酢	10cc
塩	適量
サラダ油	100g

〈作り方〉

- ①パイシートは伸ばし重しをして、180℃のオーブンで色がつくまで焼く。
- ②ボウルにⒶを入れ、しっかりと混ぜ合わせる。
- ③②にグラニュー糖を加え、しっかりと混ぜる。
- ④いちごは食べやすい大きさに切る。
- ⑤パイシートを切り、④を乗せ、③をたっぷりとかけて完成。

※パイシートはクラッカーなどで応用可能。

〈作り方〉

- ①いちごは半分に切る。
 - ②赤ワインを鍋に入れて火にかけ、アルコールを飛ばす。
 - ③Ⓐを②に加え、一度沸かす。
 - ④③に①を加え、弱火で5～10分程度煮込む。
 - ⑤容器に移し、落としラップをして冷ます。
- ※「落としラップ」とは、ラップフィルムを落とし蓋にすること。
※大人味のコンポートです。

〈作り方〉

- ①いちごは切ってミキサーにかけてピューレにする。
- ②①にⒶを加え、塩で味を調える。
- ③②にサラダ油を少量ずつ加えながら、ホイッパー（泡立て器）でかき混ぜる。（サラダ油は、糸を垂らすようにゆっくりとしたスピードで加える）

※いちごは酸味のあるものもOK。

豊かな香り

×

甘酸っぱさ



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 0120-591-516 FAX: 089-923-1522

<https://www.ehime-inryo.co.jp>
(通販専用) <https://www.pom-j.com>

化成肥料
14-14-14

化成肥料
14-10-13



正味20kg

全農®



正味20kg

供給 全農



肥料共同購入運動

～新たな購入方式でコスト低減を実践～

運動の取り組み内容

- ① JAグループ愛媛で肥料銘柄(一般高度化成)を集約
- ② 予約数量を積み上げ、集中生産によるコスト低減
- ③ 「くみあい肥料の品質」基準に沿った製造

ご予約・ご購入はお近くのJAへ

※JAによって取り扱い銘柄が異なります。

愛媛県
えひめ

2024
1月号 No.1036

● 発行／全農愛媛県本部 〒790-8555
編集部／総務課(009)948-5323

● 印刷／コープ印刷
松山市南堀端町2番地3

● 編集人／石丸
保博



2024.1/20 SAT・21 SUN

いよてつ高島屋8階
スカイドーム特設会場
10時～19時(※21日(日)は18時まで)

展示&販売会

果実コンクール・
愛媛かんきつと加工品販売

県内各地より選び抜かれた多彩な果実と加
工品が勢揃い。果実コンクール出品果実は
予約販売ですのでお早めにお越しください。

みかん〇×クイズ

小学生
以下

- 20日・12時～、15時～
- 21日・12時～

みかん数あて

【2日間連続】

参加
無料

みかんの数を当て、
賞品をGET!!



みきやん撮影会

【2日間連続】

11時～、14時～

写真OK!
こみやん
ダークみきやんも
来るよ!!

主催：愛媛県、JA全農えひめ、愛媛県果樹同志会、愛媛新聞社

後援／愛媛県議会、一般社団法人愛媛県農業会議、愛媛県農業協同組合中央会、JA愛媛県信連、愛媛県農業共済組合、株式会社日本政策金融公庫
松山支店、全国共済農業協同組合連合会愛媛県本部、えひめフード推進機構

協賛／いよてつ高島屋、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、FM愛媛、朝日新聞松山総局、毎日新聞松山支局、

読売新聞松山支局、産経新聞社、日本農業新聞四国支局、時事通信社松山支局、共同通信社松山支局、日刊工業新聞社(順不同)

みかん
ポップコーン

引換券

*材料に限りがあります
のでお時間によってはご利用
できない場合があります。

VOC
FREE

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。



「JA全農えひめ」Instagram
Follow Me!



「えひめの食」Instagram
Follow Me!



あぐり～どはWEBでも読めます
<https://www.zennoh.or.jp/e/about/information/>

UD
FONT